

12/16 木

米軍基地に「立ち入り」

神奈川・横須賀 P.F.A.S 検出問題

神奈川県横須賀市の
在日米海軍横須賀基地
内の排水処理施設から、
人体に有毒とされる有機フッ素化合物
(P.F.A.S)が検出された問題で、環境補足協定に基づき、市と国が15日、基地内に「立ち入り」しました。中野愛一郎市長特命参与が会見

し明らかにしました。立ち入りには、防衛省、外務省、環境省と市の中員が参加し、在日米軍司令部、同米海軍司令部、横須賀基地司令部の担当者が対応。調査目的ではない排水処理施設と

粒状活性炭フィルターを複数し、排水処理施設付近の海水を採取。排水が処理施設に行へ前回のリフトステーションとタンクについては、「米軍内部の運用にかかるわ」として見るところができませんでした。

早期の原因究明を求める」と述べました。排水処理施設でP.F.A.Sを含むと疑われる特異な泡が確認されたのは今年5月24日。その後、米軍の調査で検出されたP.F.O.S、P.

中野氏は原因究明について「排水処理施設が大きく、調査の範囲が排水処理施設の外にまで広がっているため、時間を要していると説明があった。引き続き国と米側に対し、早期の原因究明を求める」と述べました。

市議会で立ち入り調査を求めてきた日本共産党の大村洋子市議は「調査でも監視でもなく、米軍・国・市のデモンストレーションにすぎない。市は原因究明を求めるところが、実際を進むよう貢献してほしい」とコメントしました。